

## ～コンコードとの交流を終えて～

七飯町会計課長 星 村 明 輝

コンコード町への海外交流研修は今年度で17回目を迎え、10月4日から15日までの12日間、町内の学校より中学生5名、高校生3名、引率教員1名、一般町民3名、町職員1名の総勢13名で訪問してまいりました。

また今年度は、姉妹都市提携の調印を交わしてから15周年を迎えるにあたって、町長・町議会議長はじめ議会議員3名、職員2名の15周年記念訪問団と一部行程を同じくし、総勢20名で記念式典に臨みました。

訪問団は4回にわたる事前研修で七飯町の歴史や産業、今年7月にラムサール条約登録湿地となった大沼湖を中心とする恵まれた自然環境、コンコード町と七飯町のこれまでの交流の歴史などを学びました。

これらを通して郷土七飯町のすばらしさや、コンコードの人々のこの交流に対する深い思いを認識し、自信を胸にコンコード町に向け函館空港を出発しました。

順調に成田空港を経て、現地時間の午後4時に経由地であるシカゴ空港に到着しました。ここで、最初の難関である入国審査を受け、午後5時40分のボストン行きへの便に乗り換える予定でしたが、この審査で予期せぬ出来事がおこりました。300人ほどの審査を待つ旅行者に対し、対応する審査官は2・3人しか居らず、私たち一行は通過に3時間もかかってしまったのです。もちろんボストン行の飛行機は飛び立ってしまい、図らずもシカゴで宿泊するしか為す術がありませんでした。急遽宿と航空便の手配をし、シカゴ空港からほど近くの宿に着いたのは午後11時を過ぎてしまいましたが、中高生も長旅で疲れているにも関わらずよく頑張ってくれました。私の役割の一つは子供たちを無事に帰国させる事であり、一連の出来事の知らせが七飯のご家族に届く時には、とても心配されるのではないかと初日から身が引き締まる思いでした。

翌日もボストンへの直行便がなく、ニューヨーク経由でしかも午前6時発でしたので、寝たか寝ないか判らないうちに、早朝のシカゴを後にしました。

到着したニューヨーク・ラガーディア空港からボストンに向かう便も、空席が少ないため2班に分乗する方法しかあ



りませんでした。

めまぐるしい思いをして、やっとボストン空港に到着したのは、予定より1日遅れた午前11時頃だったのでしょうか、それにも拘らず空港でCCNNのトムさんやジュンコさんをはじめコンコードの皆さんの歓迎を受けた時には、長旅の疲れも癒されるくらい嬉しい思いでした。

その後、スクールバスでコンコードカーライル高校に向かい、図書館でバダラメント校長より歓迎のご挨拶を頂き、心のこもった手作りのケーキを頂きながら歓談させて頂きました。コンコード町には半日遅れで到着したためタウンハウス表敬訪問は叶いませんでしたが、南北戦争の発端の地であるオールドノースブリッジを訪ね訪問団全員で記念写真を撮る事が出来ました。



オールドノースブリッジにて

夕刻になりホストファミリーとの対面式がありましたが、にこやかに声をかけて頂きましたので、私たちはとても安心したのを憶えています。

私のホームステイ先は交流当初から長年受け入れて下さっているジャックさんと奥さんのナンシーさんでした。事前のメール交換で親切な方だと思っていたのですが、本当に家族の一員として歓迎して下さいました。毎年日本から来る七飯町民との交流を楽しみにし、しっかり準備をして待っていてくれたのがとても良く判りました。幸いにも私と同じホームステイ先の方が、コンコードとの親交の深い山川さんであったため、会話がはずみ交流がいつも充実したものとなりました。その夜は近所でホームパーティーが開かれるという事で、ジャックさんとナンシーさんに連れられ、向かったお宅でも温かい歓迎を受けました。ジャックさんからご近所の方々に私達を次々と紹介頂き、握手をし、片言で会話する事が出来、初日から多くのコンコードの方々との交流に感激しました。コンコードではこのように近所の人たちが定期的に家庭を訪問し合い、お互いの親交を深めているそうです。

翌日も晴天に恵まれ、ジャックさんと近所の散策に出かけました。徒歩で10分ほどにあった湖沼は紅葉真っ盛りで、まるで秋の大沼の湖畔を散歩する様なすがすがしい気分させられ



ホストファミリーと

ました。ジャックさんはコンピュータ関連の研究をされた方で、日本語で翻訳された著書も多くあり見せて頂きましたが、その中に私が以前函館の図書館で手に取った本もあり、ジャックさんの教養の高さにたいへん驚きました。

その後、同じくホームステイ受け入れのクラッツリーさん宅で昼食を頂き、その後近くの森やコンコード川の川辺を散歩する機会もありました。黄色の落ち葉をサクサクと踏みしめ、秋真っ盛りのコンコードの町を歩いていると、いたる所にカエデ等の大木があり、管理された芝生の中にたたずむ民家が自然とうまくマッチングしている様は、端正でうらやましい限りの環境でした。

「若草物語」の舞台となったオーチャード・ハウスを見学をさせていただいた時には、館長のジャン・ターンクイストさんと通訳のミルズ喜久子さんの歓迎を受けました。喜久子さんはここで日本人観光客のための通訳やガイドをするなどで活躍され、とてもやさしい人柄でした。オーチャード・ハウスの訪問客のなかで、アメリカ人の次に多いのは日本人だそうです。お二人は11月に日本での「若草物語と青い目の人形」の演劇を開催する予定になっており、七飯町の方々と交流出来る機会に恵まれた事にとっても感激されておりました。

今回の訪問団の大きな目標である姉妹都市提携15周年記念式典は、コンコード町タウンハウスを会場に、総勢20名で参加しました。七飯町長とコンコード行政委員会カーミン・C・リース議長との間で姉妹都市再盟約書にサインを交わし、これまでの交流を通じた友好親善が、両町のみならず両国の相互理解に寄与してきたことから、これからも末長い交流を継続する事を、100名を超える参加者と共に祝いました。

翌日は中高生と別れて、マサチューセッツ州の酪農業の最先端技術が学べるグレート・ブルック農場を訪問させて頂きました。ここでは、完全機械化された搾乳機に乳牛が自分の意思で向かっていました。農場主から、「牛がストレスを感じない搾乳方法は最高品質のミルクを作るのに欠かせない」と



グレート・ブルック農場



説明を受けました。この農場では、牛1頭一日当たり約40リットルのミルクを生産し、糞尿から年間20トンの肥料が生まれ、一部はトウモロコシ畑等に施肥され、他は堆肥化されて販売していました。更にすばらしい事に、排水に対しては各農場が環境に責任を持つ最善な方法で処理されているそうです。何が良いミルクを作るかを主眼にし、排泄物も無駄にせず、環境にも配慮したアメリカらしい合理的に構築された循環型システムに感心しました。

次の日は再度中高生と合流し、オルコット小学校を訪問しました。約400人の児童は「さくらさくら」を歌い歓迎してくれ、お礼に私たちは事前に猛練習した「森の熊さん」や「千の風になって」を振付を交えて合唱しました。オルコット小学校は七飯町の藤城小学校と6年前から親交が始まり、校内には日本の震災復興を願って小学生が作った千羽鶴やメッセージなどが飾ってあり、コンコード町と七飯町との交流が教育的にも広がっているのを感じました。



オルコット小学校での交流

コンコードに滞在している間に、言葉は通じなくても気持ちが通じ合う場面が多くあり、文化・生活習慣の垣根を超え、これまでの交流がしっかりと根付き、その輪が確実に広がってきているのを感じました。今回派遣された中高生の皆さんは英語を話す楽しさや、その事による可能性を感じ取った事と思います。このような機会を頂いた感謝の気持ちを忘れずに、是非、この経験を生かし今後の国際交流の場で活躍してほしいと思います。

終わりに、心温まる受入れをして下さったCCNNはじめコンコード町の皆様に感謝すると共に、この度の訪問にあたり様々な形でご協力くださいました各中学校並びに七飯高等学校、地域、参加者の保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。